

2013年漢城大学校サマープログラム報告書

北海道教育大学 函館校

環境科学専攻 2年

鈴木 貴大

新たな出会い、発見

1 はじめに

今回私が参加したサマープログラムは、8月27日～9月13日までの18日間行われたものです。日本人学生5名、韓国人学生3名、漢城大学の方2名でのプログラムでした。

2 授業

このプログラムでの授業は、韓国語を学ぶ授業と、韓国の社会・文化を学ぶ授業で構成されており、どちらの授業も土井先生という漢城大学の方が担当してくださいました。韓国語の授業では私たちのチューターをしてくださった3名の韓国人の方も一緒に担当してくださいました。

韓国語の授業は、例年日本人学生の韓国語の習得レベルが違うということで、どのレベルから授業を始めるか不安でしたが、今回参加した日本人学生は大学などで習っていたということもあり、会話のところからの授業のスタートでした。他の日本人学生に比べて私が習っていた範囲がまだ少なかったため、ついていくのが大変なところもありましたが、それもまた自分にとってはよい刺激となりました。私のような初級レベルの者にとってはすこし大変ながらも、とても勉強になったのですが、本格的に韓国語をやりたいという方がいたならば、少し物足りないものだったかもしれません。

韓国の社会・文化の授業では、政治、経済、文化、言語など様々なテーマについて学びました。最終日には「日韓関係の未来を考える」というテーマで自分の意見を出し合いました。



図1：講義室の様子



図2：漢城大学キャンパス

3 文化体験・観光

授業終了後や、授業のない日はソウル市内に出かけて様々な文化体験・観光を行いました。北海道教育大学から漢城大学へ留学している方や、去年まで日本に留学していたかたとも一緒に行動できました。留学している先輩からたくさん話を聞くことができ、私自身とても勉強になりました。

訪れた場所は数多く、DMZ やナムサンタワー、漢江、NANTA の公演など、通常の旅行では到底まわれないくらいたくさん場所へ行きました。そして、私は光化門と縁があったのかプログラム中 4 回も足を運ぶことになりました。



図 3：光化門



図 4：漢江の公演

4 ソウル

土日は大学で定めているプログラムは無いので、基本的には日本人学生と韓国人学生でソウル市内を観光したり、日本人だけでショッピングにいたりしました。あまり多くの時間はとれませんでした。私も一人でソウルの街を歩いてみたり、カフェに入って韓国語の勉強をしたりしました。ただ、一人で歩いているとやはり「少しでもいいので韓国語を話せたらな…」と感じる場面が多かったです。よい勉強のチャンスを逃してしまったと思うと、少し後悔が残ります。

ソウル市内は首都ということで、夜でも本当ににぎやかな街でした。また来て住んでみたいと思える街です。

5 アドバイス

勉強に関していえば、宿泊するゲストハウスに机がなかったり、なかなか自分だけの時間を見つけることが難しかったりして少し大変ですが、うまく土日で時間を作って復習できるといいかもしれません。

自分のことになりますが、今回のプログラムに参加しようと思ったのは、私が漢城大学の学生のチューターを行ったことがきっかけでした。そして、今回韓国に行ったときに私のチューターをしてくれた方は、今日本に留学しており、私がチューターをしています。もしプログラムに参加したいと迷っている方がいれば、積極的に留学生とかかわってみる

といいかもしれません。

6 さいごに

このプログラムに参加し、多くの経験を得ることができたのは、たくさんの方の協力があったからだと思います。協力していただいたすべての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。